

富士の歳時記



マルダイの門松

◇…猛々しい牙にきらりと光る目玉。大きく踏み出した前足に、大地に突き刺さるうかという長い爪が鈍く輝く。来年の干支を飾る虎がこちらを見ている。富士市大洲の住宅資材販売マルダイ(深沢裕一郎社長)ではこの時期、そんな迫力ある光景に出会える。年末年始の風物詩「ジャンボ門松」作りが佳境を迎えている。

◇…虎が描かれているのはアカマン材。4^号×3^号角の住宅建築資材420本が縦4^号横5・6^号の広大なキャンパスを作る。主役の回りには富士山に朝日、松竹梅といった縁起物も。発注主は県内外の工務店などで、本来の門松よろしく店の入口などに飾られ、神様ならぬお客様を招く願いが込められているのだとか。

◇…マルダイによると、ことし注文があったのは15社ほど。昨春秋以来の不況にもかかわらず例年並みの件数という。景気低迷で慣習を打ち切るところもあるというが、「この不景気を吹き飛ばしたい」と新たに発注する会社も多いのだという。富士市内ではこの門松、マルダイの正面入口で来年1月15日まで展示している。

◇…飾り終えた門松は工務店の抱える施主の住宅に使う。縁起材として天井下地など居住空間から見えない場所に配される。「大変な努力をして新築を建てるのだからいい年を迎えてほしいよね」とは門松を描く清水看板(中野)の清水信夫社長。「いつもお客さんの喜ぶ顔を思い描いているんだよ」と振るう腕に力がこもる。